

令和 7 年 6 月 4 日現在

機関番号：16301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2022～2024

課題番号：22K02524

研究課題名（和文）家庭科教育での概念型カリキュラム開発を目指した教師教育プログラムの構築

研究課題名（英文）Development of a Teacher Education Program Aimed at Designing Concept-Based Curriculum in Home Economics Education

研究代表者

竹下 浩子（TAKESHITA, Hiroko）

愛媛大学・教育学部・准教授

研究者番号：00412221

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：家庭科教育において、知識・技能の学習に概念的思考を組み合わせた概念型カリキュラムを展開するために、他教科や総合学習等を複合的に体系化した教師教育プログラムを構築することを目的とした。

研究全体の成果として、教育現場での汎用の可能性を探るため、概念型カリキュラムに興味のある教員を対象に、講義を開催したり、教員と研究者が共に概念型カリキュラムについて話し合う勉強会を定期的で開催することができた。教育現場との連携により具体的な授業内容を提案し、一部は授業化することができたことは、本研究が活発に行われていることを裏付けるものである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

我が国では、教科の見方・考え方を概念的思考と結びつけて概念型カリキュラムの理論と実践を展開することが期待されているものの、その必要性を認識している教員はほとんどいない。そこで、本研究では、海外の Concept-Based Curriculum and Instruction Trainers を参考に、我が国の学習指導要領に即した日本型概念型カリキュラムの作成とそれを実践的に行うための教師教育モデルを示すことで、概念型カリキュラムの促進を図ることができた。さらに概念型カリキュラムを展開により、家庭科だけでなく他教科や総合学習等を複合的に体系化した教師教育プログラムの構築となった。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to develop a teacher education program that organizes multiple disciplines, including other subjects and integrated studies, in order to implement a concept-based curriculum in home economics education, which combines knowledge and skills with conceptual thinking.

As an overall outcome of the study, in order to explore the applicability of the concept-based curriculum in educational practice, lectures were offered to teachers interested in the approach, and regular study sessions were held where teachers and researchers discussed the concept-based curriculum together. Through collaboration with schools, specific lesson plans were proposed, some of which were successfully implemented in classrooms, demonstrating the active progress of this research.

研究分野：教育学

キーワード：概念型カリキュラム 概念型学習 概念型探究 持続可能な社会の構築 カリキュラム開発 教師教育

### 1. 研究開始当初の背景

現行の学習指導要領では、教科独自の資質・能力と全ての教科に共通する汎用的スキル（コンピテンシー）との関係性に注視し、各教科等の本質に関わる概念が示されている。家庭科の学びにおいては、既存の知識・経験に新しい知識を結びつけ、生活の営みに係る生活概念の形成化はこれまでも行われてきた。しかし、児童・生徒がリアルな生活実践の場において、主体的に生活に関わろうとする態度や、実生活に必要な汎用的スキルの獲得に至っていないことが、家庭科教育のカリキュラム開発で課題とされている。鈴木<sup>1)</sup> (2019) は、この生活概念の形成を「知の総合化」と捉えた上で、家庭科がこの「知の総合化」を自然に成し遂げる構造を潜在させているにもかかわらず、この構造が返って教科観を曖昧にし、要素的技能の習得や生活の定期的科学化に指導の重点が置かれていることを指摘している。そのため、家庭科と各教科等が共通とするものは何か、対象や状況によって見方・考え方が変化するのはなぜかといった学際的な視点に立った深い洞察力と統合的な理解が教師自身に求められている。従来、教科横断的な学びの反省として、学習内容（コンテンツ）の類似性から教科横断的な授業を進めていたことが挙げられるが、本当の意味での深い学びは、概念的理解を基軸にすることで、コンピテンシーベースのカリキュラムが現場において効果的に実施される。本研究の目的とする教師教育プロジェクトの構築は、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせ、コンピテンシーベースのカリキュラムを概念型カリキュラムとして体系的に捉え、実践しようとする家庭科教員に学びの場を提供することができる。これは、OECD「Learning Compass 2030」<sup>2)</sup>の中で示された、コンピテンシーベースのカリキュラム開発と連動して指導方法・評価方法や教員養成・教員研修が必要とされる国際的な議論とも重なる。

### 2. 研究の目的

本研究は、家庭科教育における知識・技能の学習に概念的思考を組み合わせた概念型カリキュラムを発展させるために、他教科や総合学習等を複合的に体系化した教師教育プログラムを構築することを目的とし、次の2点に着目した。

#### (1) 他教科と連携するための共通のテーマ設定

持続可能な社会の追求は、全人類の共通課題であり、これからの社会を担う子どもにとって、学校教育から生涯教育へとつながるテーマとして各教科の教員が課題意識を持ちやすい。そこで、各教科等を複合的に体系化した教師教育プログラムを構築するうえで、持続可能な社会を共通テーマとして設定した。

#### (2) 教科等の融合性、授業者と学習者の双方向からの評価方法の開発

概念型カリキュラムに基づく評価方法を開発することで、児童・生徒がどのように概念的学習に向き合い、教科で求められる知識・技能と汎用的スキルの双方を学びのどの過程において獲得していったかを検証することが可能となる。また、最近では教師だけが学習評価を行うのではなく、学習者である子ども自身に自己の学びに対する評価を行わせることの重要性が指摘されており、授業者と学習者の双方向からの評価方法のあり方についても検討した。

### 3. 研究の方法

調査方法は、まず、教科独自の観点を学際的な視点からのアプローチに広げ、複雑な社会を理解し問題解決を図る概念的思考を組み合わせた概念型カリキュラムの教師教育プログラムを開発する。次に、校種や教科の枠組みを超えた教師教育プログラムを継続的に実施する。最後に、参加した家庭科教員の変容と授業分析等からプログラム全体を検証し、概念型カリキュラムの教師教育プログラムを構築する。

期待される効果として、体系的かつ継続的なサポートと学びの協力関係によって成り立つ教師教育プログラムは、教師自身の思考力と創造力を開花させ、教室での実践に変化をもたらす。家庭科教育においては、「生活の営みに係る見方・考え方」に焦点をあてた概念型カリキュラムを提案することができる。

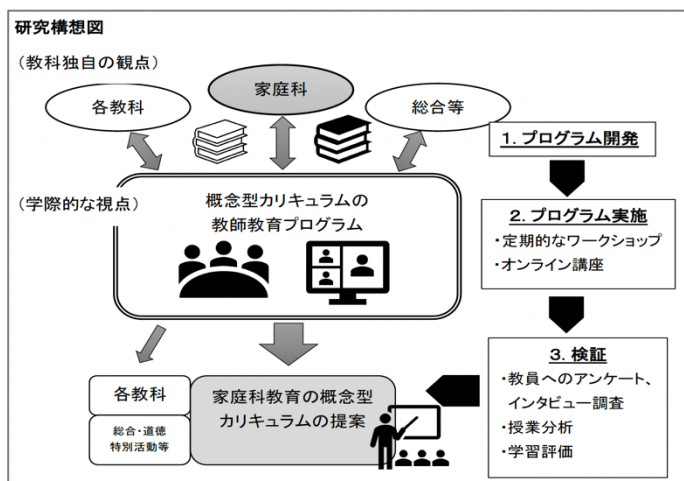


図1 研究構想図

#### 4. 研究成果

##### (1) 2022年度の研究成果

研究の初年度となる2022年度は、日本の一般的な公立の小学校・中学校・高等学校で実施可能な概念型カリキュラムの教師教育プログラムを開発するため、国際バカロレアの認定校やインターナショナルスクールの教師やコーディネーターが主に参加する海外の Concept-Based Curriculum and Instruction Trainers のオンラインセミナーに研究代表者と研究分担者の計3名が受講し、概念型カリキュラムについて理解を深めた。さらに、その理解を共同研究者で毎週1回勉強会を開催し、公立学校での展開の可能性と課題を検討した。また、家庭科と他の教科独自の観点を学際的な視点からのアプローチに広げ、複雑な社会を理解し問題解決を図る概念的思考を組み合わせた概念型カリキュラムを開発するため、持続可能な社会の構築を基盤とした概念型カリキュラムに取り組むことにした。そこで、中学校家庭科の学習指導要領に基づいた学習内容と概念型学習でのキーワードを照らし合わせ、家庭科における概念型カリキュラムの授業デザインを作成した。さらに、それをもとにして、中等バカロレア認定校の中学校の家庭科教師の授業実践を参考に、概念型カリキュラムに基づく衣生活授業の開発をおこなった。概念型カリキュラムは、現行の学習指導要領の見方・考え方に通じるものがあり、公立学校における推進は可能であることが分かった。しかし、概念型カリキュラムの作成にあたっては、教員自身に概念に関する深い理解が必要であるため、教員および研究者との交流を通しての授業づくりが必要となる。

##### (2) 2023年度の研究成果

海外の Concept-Based Curriculum and Instruction Trainers のオンラインセミナーに研究代表者と研究分担者2名、学部学生1名の計4名が受講し、家庭科、国語、保健体育、英語の教科ごとのユニットプランを作成する最終課題に合格し修了した。そのオンラインセミナーの中で、研究代表者は中学校家庭科のカリキュラムを作成した。アップサイクルの内容に関する概念型探究学習のユニットプランを作成し、概念型カリキュラムに対する理解を深めることができた。これらの知見をもとに、共同研究者、その他の研究者と週1回の割合で頻繁に概念型カリキュラムの勉強会を開催した。家庭科教育の基礎学問となる家政学から持続可能な社会の概念の体系化を行い、家庭科教育における概念型カリキュラムの展開を明らかにした。その成果について、消費者教育学会に査読付き論文を1本投稿し、巻頭論文として掲載された。また、共同研究者が概念型カリキュラムに関する論文を1本執筆、学会発表2件を行った。教育現場での汎用の可能性を探るため、概念型カリキュラムに興味のある教員を対象に、5回の講義を開催し、概念型カリキュラムの具体的な授業を参加者が提案することができた。以上、①共同研究者との頻繁な共同研究が継続的に行われていること、②研究成果を論文として3本の論文を投稿し採択されたこと、③教育現場との連携により具体的な授業内容を教員が提案することができ、今後の授業に展開できる見通しができたことは、本研究が活発に行われていることを裏付けるものである。

##### (3) 2024年度の研究成果

最終年度の2024年度は、教育現場での汎用の可能性を探るため、共同研究者が市教員研修センターと中学校家庭科教員と協働で、中学校家庭分野の家族・家庭生活の内容で、概念型探究を取り入れた授業実践を行った。その授業は公開授業の形で行われ、多くの公立学校の教員と教員養成課程の大学生、大学院生が参観に来た。その後、交流会が行われ、概念型学習についての紹介や概念型カリキュラムについての導入に向けて意見交換ができた。研究者、その他の研究者、教員と週1回の割合で頻繁に概念型カリキュラムの勉強会を開催した。その中で、複数教科での教科横断的なカリキュラム開発を視野に入れ、小学校における家庭科、保健領域の教科横断的な学習について、指導法の展開を発展させる方法を検討し、共同研究者とともに概念型カリキュラムによる指導法の発展についての論文を執筆した。それ以外に、消費者教育における概念型カリキュラムを一般の公立学校で展開させる可能性についての論文1本と、STEAM教育における概念型探究に関する論文1本を執筆した。また、教員養成課程の大学生が卒業研究のテーマで概念型カリキュラムについて研究を通して、将来教員となる学生に対し、概念型学習について進め方に関する指導を行うことができた。

研究全体の成果として、教育現場での汎用の可能性を探るため、概念型カリキュラムに興味のある教員を対象に、講義を開催したり、教員と研究者が共に概念型カリキュラムについて話し合う勉強会を定期的で開催したりすることができた。教育現場との連携により具体的な授業内容を提案し、一部は授業化することができたことは、本研究が活発に行われていることを裏付けるものである。

#### <引用文献>

- 1) 鈴木明子, コンピテンシー・ベースの家庭科カリキュラム, 東洋館出版, 2019年
- 2) OECD(2019), OECD Future of Education and Skills 2030 Conceptual learning framework; Learning Compass 2030.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 竹下 浩子、大本 久美子、大野 真貴	4. 巻 44
2. 論文標題 消費者教育における概念型探究の提案	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 消費者教育	6. 最初と最後の頁 113～122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.50844/jjace.44.0_113	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 富田英司， 竹下浩子， 藤原一弘， 向平和， 井上昌善	4. 巻 3
2. 論文標題 ESDの担い手を相互ネットワークで繋げる脱中心化アプローチ	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 科学教育研究センター紀要	6. 最初と最後の頁 3～8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 上田 敏子，竹下 浩子，富田 英司	4. 巻 24
2. 論文標題 教員養成課程における概念型探究に基づく指導方法の展開 小学校体育科保健領域と家庭科による検討	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 大学教育実践ジャーナル	6. 最初と最後の頁 1091～116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 竹下 浩子，大本 久美子，大野 真貴	4. 巻 43
2. 論文標題 消費者教育における概念型探究の可能性-中学校技術・家庭(家庭分野)の衣生活の学習を通して-	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 消費者教育	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.50844/jjace.43.0_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 富田英司, 竹下浩子, 藤原一弘, 向平和, 井上昌善	4. 巻 3
2. 論文標題 ESD の担い手を相互ネットワークで繋げる脱中心化アプローチ	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 愛媛大学科学教育研究センター紀要	6. 最初と最後の頁 3-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 竹下 浩子, 大本 久美子, 大野 真貴, 小曾根 潮	4. 巻 42
2. 論文標題 SDGsの概念を取り入れた技術・家庭科における消費者教育の提案	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 消費者教育	6. 最初と最後の頁 89 ~ 99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.50844/jjace.42.0_89	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大野 真貴, 大本 久美子, 竹下 浩子	4. 巻 42
2. 論文標題 SDGs を軸とした技術・家庭科 (家庭分野) の授業デザインの成果と課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 消費者教育	6. 最初と最後の頁 239 ~ 248
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.50844/jjace.42.0_239	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 竹下 浩子, 鈴木 明子	4. 巻 3
2. 論文標題 家庭科における持続可能な社会の概念的理解の展開への試案	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 広島大学大学院人間社会科学研究科紀要. 教育学研究	6. 最初と最後の頁 139 ~ 146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/53388	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 富田英司	4. 巻 2
2. 論文標題 概念型探求の転移段階でエージェンシーを育むSTEAMとしてのキャリア教育	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 愛媛大学科学教育センター紀要	6. 最初と最後の頁 31～40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計5件(うち招待講演 0件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 竹下浩子
2. 発表標題 A Study of Learning to Promote Conceptual Thinking about Sustainability in University Students -Through online lectures using the Blocks-
3. 学会等名 IFHE World Congress 2025 (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 竹下 浩子, 大本 久美子, 大野 真貴
2. 発表標題 消費者教育における概念型探究の効果 子どもの資質・能力に焦点を当てて
3. 学会等名 日本消費者教育学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 竹下 浩子, 大本久美子, 大野 真貴
2. 発表標題 消費者教育における概念型探究の評価 中学校技術・家庭(家庭分野)の衣生活の学習に焦点を当てて
3. 学会等名 令和5(2023)年度 日本消費者教育学会関西支部研究・実践発表会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 竹下浩子、大本久美子、大野真貴
2. 発表標題 消費者教育における概念型探究学習
3. 学会等名 日本消費者教育学会関西支部
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 竹下浩子、大本久美子、大野真貴
2. 発表標題 消費者教育における概念型探究学習の可能性 - 中学校技術・家庭（家庭分野）の衣生活の学習を通して
3. 学会等名 日本消費者教育学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	井上 昌善 (Inoue Masayoshi)  (10824104)	愛媛大学・教育学部・准教授  (16301)	
研究分担者	藤田 昌子 (Fujita Atsuko)  (40413611)	愛媛大学・教育学部・教授  (16301)	
研究分担者	藤原 一弘 (Fujiwara Kazuhiro)  (40824082)	愛媛大学・教育学部・准教授  (16301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	富田 英司  (Tomida Eiji)  (90404011)	愛媛大学・教育学部・准教授    (16301)	
研究分担者	上田 敏子  (Ueda Toshiko)  (10554298)	愛媛大学・教育学部・准教授    (16301)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	大本 久美子  (Ohmoto Kumiko)		
研究協力者	大野 真貴  (Ono Maki)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関